

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 28人

② 算数 28人

5 留意事項

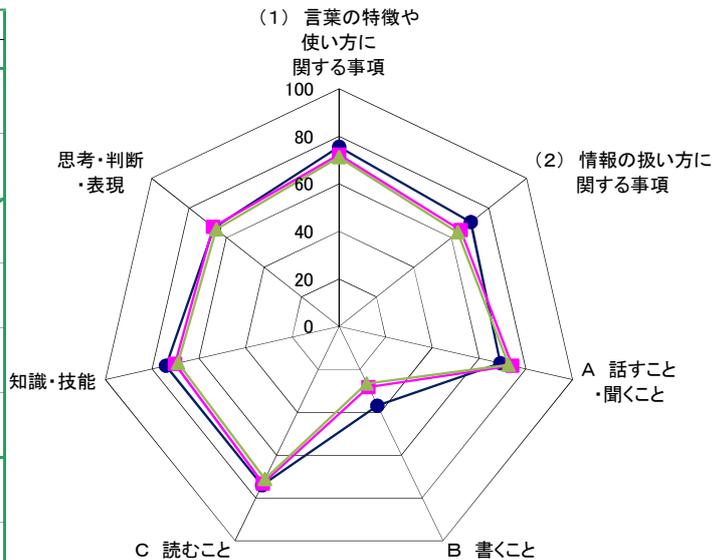
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	75.6	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	70.4	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	69.1	74.2	72.6
	B 書くこと	37.0	28.2	26.7
	C 読むこと	74.1	73.3	71.2
観点	知識・技能	74.1	70.2	68.9
	思考・判断・表現	66.7	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

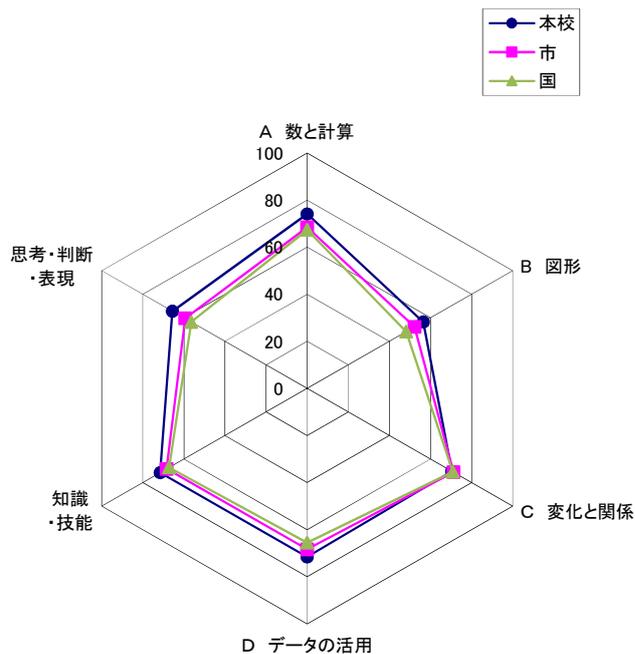
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の正答率を上回った。</p> <p>○漢字を文中で正しく使えるかどうかをみる問題では、正答率が88.9%と高かった。</p> <p>●日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題では、正答率が55.6%と低かった。</p>	<p>・新出漢字を使って文を書いたり、並行読書などを通して、多くの文章に触れる機会を作ったりするなど、文章の中で漢字を正しく使えるための指導を継続していく。</p> <p>・正しい敬語を日常的に使えるように、生活の中で敬語を使う機会を意図的に設け、指導していく。</p>
(2) 情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の正答率を大きく上回った。</p> <p>○原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題は、よくできていた。</p> <p>●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題では、無回答の割合が高かった。</p>	<p>・文章の内容を図や表を使って整理することを、すべての学習活動で行うようにして、慣れさせるようにする。</p> <p>・話や文章に含まれている情報を取り出してわかりやすく整理して、その関係を捉える活動を取り入れていく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の正答率を下回った。</p> <p>●必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいこと、自分が聞きたいこと、中心を捉える問題では、質問の理由を適切に選ぶことに課題が見られた。</p>	<p>・インタビューの目的や理由などを考えるなど、学校生活の中で振り返ったり、学習の中でさらに深めたりするなどし、インタビューの受け答えなども合わせて指導を続けていく。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、市の正答率を上回った。</p> <p>○文章を読み取り、問題点と解決方法を書く問題では、正答率が37.0%であり、市の正答率より8.8ポイント上回った。</p> <p>●「グラフまたはカードからそれぞれ分かることを書く」という条件に合わせて記述する問題で、グラフかカードの片方しか取り上げていない児童が</p>	<p>・国語以外の教科でも自分の考えを文章で表現できるよう、意図的に文を書く機会を作るようにする。</p> <p>・回答する際に与えられた条件の中で文を書くという活動を取り入れ、書くことに対する苦手意識を取り払い慣れ親しむような指導を行う。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、市の正答率をやや上回った。</p> <p>○文章を読んで理解したことに基づいて、条件に合わせて自分の考えをまとめることがよくできていた。</p> <p>●目的に応じて、文章と図表などを結びつけることから必要な情報を見付けることに課題が見られた。</p>	<p>・定期的に、決められたテーマについて文章を書き、お互いに読み合って意見を交換する活動をしてきたことより、正しく文章を読み取り、自分の考えをまとめる力が身に付いてきているため、継続して行う。</p> <p>・国語科だけでなく、他教科においても図表と説明している文章を結びつけられるよう指導していく。</p> <p>・引き続き、音読や読書を励行する。</p>

宇都宮市立上河内東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	74.1	68.4	67.3
	B 図形	56.5	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	70.4	71.2	70.9
	D データの活用	71.6	68.3	65.5
観点	知識・技能	71.6	68.4	67.2
	思考・判断・表現	65.6	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、市の正答率を上回った。</p> <p>○一の位が0の二つの2位数の乗法の計算や、加法と乗法の混合した整数の計算や分配法則を用いて計算する問題の正答率は85%を超えており、基本的な計算の力が身につけている。</p> <p>○()を用いた式や加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読みとる問題の正答率も85%以上である。</p> <p>●(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える問題の正答率が55.6%と低い。</p>	<p>・加法・減法・乗法・除法の計算を指導する際、計算方法の理解にとどまらず、意図的に位の数字の意味にもふれることで、数の表し方についての理解を深めていく。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、市の正答率を大きく上回った。</p> <p>○昨年度の学力調査の結果よりも、正答率が上がった。</p> <p>○図形の性質を問う問題はいずれも県や全国の正答率を上回っており、図形に関する用語やその性質について理解できている児童が多い。</p> <p>○正方形の意味や性質を問う問題では、正答率が96.3%であった。</p> <p>●記述式で問われた、三角形の底面と高さをもとに面積の大小を判断し、理由を述べる問題では、無回答の児童が見られた。</p>	<p>・算数に関する用語や性質などについて十分理解できていることから、今後も継続して定義や性質をしっかり押さえ、知識・技能を高めていく。</p> <p>・三角形の面積を決定づける条件について確認を行い、知識の定着を図る。また、説明をするときには、「底辺」や「高さ」などの用語を意図的に使うように指導し、説明する力を伸ばしていく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、市の正答率をやや下回った。</p> <p>○伴って変わる二つの数量についての正答率は、市の正答率を上回り、比例の関係と求め方を理解して、答えを式や言葉を用いて記述することができる。</p> <p>●示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ問題では、「100人をもとにした0.3人の割合」「100人をもとにした3人の割合」「30人をもとにした1人の割合」と解答しているものが目立ち、百分率で表された割合についての理解に課題がみられた。</p>	<p>・割合の意味と表し方、基準量と比較量の関係を捉えて、割合＝比較量÷基準量の関係について、復習を取り入れて、理解を図る。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は県と市の両方を大きく上回った。</p> <p>○無回答が少なく、記述問題もがんばって書いている児童が多く見られた。</p> <p>○決められたデータから条件に合う数を読み取ることができている。</p> <p>●「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る問題では、県の平均を下回った。</p>	<p>・「以上」「未満」などの言葉を使う問題を朝の学習の時間などで扱い、意味を正しく理解し、言葉に慣れていく。</p> <p>・データが複数ある問題にも慣れていくことが必要。複数あるデータを比べて共通点や相違点を自分の言葉で伝えられるよう指導していく。</p> <p>・以上と以下、未満や「○から○まで」などの表現を日常の場面で使用して身近な言葉として理解を深め、使えるようにしていく。</p>

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに対して「当てはまる」と回答した児童が78.6%であり、全国平均を36.0ポイント上回っている。今後も自己肯定感を高められるような声掛けや、学級として個人を認めてあげられるような取り組みを継続して行っていきたい。

○「5年生までに受けた授業で、PCや1人1台端末などのICT機器をどの程度使用しましたか」という問いに対して「ほぼ毎日」と回答した児童の割合は75.0%であり、全国平均を大きく上回っている。学校としてICTを積極的に使用してきた成果が表れているため、今後も継続して取り組んでいくとともに、ICTの効果的な使用についてもさらに考えていきたい。

○「授業で学んだことを、他の学習に生かしていますか」という問いに対して「当てはまる」と回答した児童の割合は71.4%であり、全国平均を32.4ポイント上回っている。授業を行う際、他教科で学習したことを想起させたり、関連学習を意図的に設定したりする。

○「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのようにかいましたか」という問いに対して「全ての書く問題で最後まで解答を書くことと努力した」と回答した児童が100%であった。日頃からの作文指導や課題に最後まで諦めずに取り組む姿勢の指導を行ってきた成果だと考えられる。国語だけではなく、他の教科や日常生活においてもねばり強く取り組む姿勢が向上するよう研究していきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という問いに対して1時間以上読んでいる児童の割合は14.3%と、全国平均を4.2ポイント下回っている。読書の楽しさを伝えられるよう、家庭や図書館司書と連携し、児童が少しでも本と触れ合える機会を増やしていきたい。

宇都宮市立上河内東小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるめあて・まとめ・振り返りの充実	学校全体で、めあて・まとめ・振り返りの板書を揃え、ノートに書く指導をしている。	国語、算数において「授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が90%以上と、全国の割合を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいこと、自分が聞きたいことを中心に捉える問題や、質問の理由を適切に選ぶ問題では正答率が全国を下回り、課題が見られた。	話し手と聞き手の立場を明確にした会話活動の充実	インタビューの目的や理由などを考えるなど、学校生活の中で振り返ったり、学習の中でさらに深めたりするなどし、インタビューの受け答えなども合わせて指導を続けていく。